藝藩通志

高田郡 五六

六十七 六十八

和書門 類
二二六〇五 號
二〇二 函
一 架
九二 冊

内閣文庫
和書 類
二二六〇五 號
九二 冊
一七五 函
一二 架

内 一一〇一六號

内閣文庫

番號	和	22605
冊數	92	(40)
函號	175	171

藝藩通志巻六十七

安藝國高田郡五

古蹟名勝

人物

孝義

故家

日本政府圖書

内一一〇一六號

安藝國高田郡五

古蹟名勝　奇樹怪石附

稲田川　吉田村にあり、土人傳云、この地、昔素戔嗚尊、大蛇を斬たまひし所なりと、是日本記一書、安藝國可愛川上といふ説によりていへるなるべし、且此地、もと高宮郡高宮の郷にて、今吉田、祇園社に、素尊及び稲田姫、足摩乳手摩乳をまつれる、

といへる類、一端にあらず。傳会して然るにや。姑く所傳を記するのみ。

鞆山 川根村にあり。此山後に觀音あり。一に觀音か嶽といふ。此地、安藝・備後・石見三國の界にして、三國の大山に臨む。故にすべて、これを三國山とも称す、鞆山その一なり。三山の間、江の川、水勢悍急にして、舟行の難所あり。俗に逆巻とよぶ。一勝地なり。

郭公山 北村、石見路にあり。傳へいふ、和泉式部、石見の人丸社へ詣の時、歷し所なりと。和歌ありといふも信がたし。

曽我比丘栖所 北村にあり。曽我祐成が妾、いらら流寓の所なりといふ。

僧自休舊居 佐々井村にあり。自休は京大徳寺の僧なり。當郡根郷本現寺を造り居る。今寺は廢して小堂を遺せり。自休が椅子を置く。寺地に

経石あり、堀れバ出る、文字鮮好なり、自休が自書なるべし

白菊塔　上入江村、度瀬原にあり、土人伝へいふ、白菊ハ白休が鎌倉にありし時の愛童なりしが、怨ることありて、辞世のうたに、　白菊に、志のぶの里の人とハゞ、おもひ入江の嶋とこたへよ　うき事をおもひいり江の嶋蔭に、すつる命ハ波の下草とよみて、江の島の児が淵に入りて死にけり、後

に、白休南国に下り、此入江村といふ名によりて、更に哀れをおもひ、真跡池といふにて、施餓鬼を行ひ、此所へ、経石を埋め、塔を築て、かれが冥福を脩せしといふ又側に若宮とて、茅ぶきの小堂あり、内に、木像の仏をおきて、白菊が像なりや、又ハ白休が像かハ、辨しがたしといへり、

塩焼寺　北村にあり、塩谷寺屋敷といふ地に、菩提樹あり、土人伝云、空海、此地にて、民に、木より塩を

形る事を教へし所なりとその跡に小菴ありしが今ハ名のミなり。

牛鉄　川根村、妙見山の内に、大なる丸鉄にて埋む土人牛鉄といふ。

斬蛇谷　生田村にあり、伝云、むかし巨蟒ありて、人を害せしを、小原幸千代、これを斬る、幸千代ハ、石見の人といふ。

鰻鱺治　同村、犬伏山の内にあり、伝ふ、昔大鰻鱺ありて、人を害せしを、地頭池田右馬頭、射て、これを殺せし。

神倉　井原村、山上にあり、巨岩高十五丈許、岩の内に、権現祠を置、傍に泉あり、又風穴ありて、深さ測るべからず、此穴に風を出せば、旱天の時、雨を此所に祈るに、或ハ小蛇出る事あり、必雨ふるといふ岩の上、藝石雲三国南北の山海を望むべし、別に石窟あり、席五六枚を敷べし。

殿石 川根村鈴荒川原にあり。昔此地に口羽通良魚梁を置く。此石その観魚の所なりしといふ。

難瀬 船木村にあり。両岸に山、東より大石数百河中に出て、舟を通せず。故に難瀬といふ。西岸の石山、屹立して、甚佳観なり。東岸は備後三次郡なり。

釜淵 吉田村にあり。毛利家人、荒源三郎元茂、猳獺を生獲せし所といふ。事は武家高名記に見えたり。

梁原 釜淵の南にあり。昔毛利氏、魚梁を置所なりし。今誤て柳原といふ。

轟瀬 三田村にあり。此川、石多く水激して鳴る故に名つく。景地なり。夏月に螢火多し。

陣原 同村にあり。三田少輔武を講せし所といふ。

駄宇ゝゝ瀬 同村古川郷にあり。水聲高く響く。岩間に杜鵑花多し。

琵琶渕(ひはふち) 同村にあり、泉石の佳處なり、昔し一陶
真誤て水に墜つ、琵琶渕に入て出ず、因て名く
といふ、

櫻瀬(さくらせ) 琵琶渕の下流に在、昔櫻樹あり、今ハ枯
ぬ、水神社あり

轆轤瀬(ろくろせ) 附 滑石 同村下海戸にあり、河中に、大盤石あ
り、僅に一舟を通する許寛なり、下流に、まゝ大
石あり、倍に滑石といふ

宮原絶壁 同村にあり、絶壁屏立し、上に観音堂
あり

矢櫃渕(やびつふち) 戎渕(えびす) 平巌渕(ひらいえ) 並に大師村にあり、みな
泉石の佳處なり、また神子渕、平家渕、蛇渕なと
いふあり

黄牛渕(あめがふち) 志路村にあり、昔村民、水虎の為に、黄牛を
奪はる、故に渕の名とすといふ

真野池(まの) 上入江村にあり、土人ハ、まんのう池といふ

池に異草など生ぜ、小児の夜啼など止むといふ。

観音湯　戸嶋村にあり傍に観音堂あり。

破鍋瀧（なべわりたき）　向山村にあり、下流に瀧井谷といふあり
其内に、かじか多し、夏月、鳴聲愛すべし、

魚限瀧（いをきりたき）　古屋村にあり、川巨石を横へ、上に龍王
小祠あり、急流、魚上ることを得ず、

音林寺瀧　土師村にあり

飛泉十七所　粟屋、羽佐竹、有留、志路、四村各一所あり

藝藩通志 巻

多治比、桑田、浅塚、高田原、四村各二所あり、市川
村に五所あり、水の多少長短、皆同じからざれど
も、出群のものなし。

千貫清水　上甲立村にあり、清冽、常に異なり、昔
は五龍山上にありて、宍戸隆家、称して、直（あたひ）千貫
にも換へじといひしより、かく名づけしといへり、今は
道下に湧出るなり、夏日、魚を放てば、身をかへ
して躍ることを得ずといへり。

神水　吉田村、祇園社にあり、旱澇に、水増減せず、

小田蛙　同村多治比川にあり、傳云、此川むかし地宗多し、故に毛利元就、井手玉川の蛙を多く放しむ、今なほ遺種を存せり、或云、小田ハ御種の訛り、或ハ井手の轉訛なるべしといふ

蠑子休　房後村にあり、毎歳六月、土用前後、六七日の際、蠑子多く穴を出て、死するがごとし、六七日にして去る、因て其地に名く、

天河　本村の伊遠布山上に、かはらあり、天河又大白河原ともいふ、昔其内に、鯛のごとき魚を生せ故に其山を、魚生比良山ともいふなり、

以呂波石　吉田村河邊にあり、石にいろは文字の紋あり、偶拾得るものあり、俗傳に、僧空海、いろは、四十七字を、小石に書して、こゝに捨つといふ永禄の頃、聖護院道澄親王、京師より来り、此河邊に遊び、和歌を作りたまへり、いさ渉ずや言

菜の花のいろは石、よし田へくりの、以くはとに
せん、

石窟　上入江村にあり、高五尺、廣七尺許、入こと
三間許なり、此近村此類多し

霊石　桐谷村、八幡宮にあり、傳云、観應貞治の頃
毛利師親、石見江川先陣の時、此石、鐘の袖に入
り、遂に川を渡ることを得、因て異として、神殿に納
むといへり

大石　三田村、下海戸にあり、土人岩城といふ、

鍋（なべ）石　附漆柱　羽佐竹村にあり、川中の岩に穴あり、茶
釜薬鍋に似たり、凡十五あり、又小川の底に炭
の如きものを生す、俗に漆柱（うるしばしら）といふ、

潜行石（くゞりいし）　上小原村と坂村との界に在、大石渡立
其間、人を通すべし、また障子岩ともいふあり

烏帽子石　比丘尼石　並多治比村にあり、比
丘尼石は、烏帽子石の山下にあり、昔孝尼、此所

を過き、山上の烏帽子石、缺崩れして壑孔を、土人
石上の宿水をとりて、難産を療す、
呼岩　本村、淺塚村、谷一あり
聖岩　娘岩　並ニ本村ニあり
佛岩　狼岩　繫舩石　並ニ淺塚村ニあり
念佛石　三田村ニあり
屏風岩　挟岩　烏帽子岩　飛岩　迯駒岩　並
ニ坂村ニあり

可良不斗石　長屋村ニあり高一丈八尺、奇巖
なり、
覗岩　立岩　力石　並ニ生田村ニあり覘岩ハ
下ニ穴ありて、人臨めハ杠幌を見ると云、力石ハ
他所ニ移せバ自ら返ると云、
疊岩　一駄岩　並に同村の奇岩なり、
化粧岩　同村風越山ニあり、石凹處に水あり、石
面ニ梯子のごとき痕あり、

佐石　有留村成戸にあり、岩下に小祠あり、水神と称す、岩上の凹處に宿水あり、疣を治す

奇石　古屋村にあり、石面に人の足跡、及び牛馬なとの蹄跡あり、

笠石　下小原村にあり、上下二箇あり、

相生松　吉田村郡山の叢、荒神貴布祢女社の間にあり、中の枝雌にして、上下の枝雄なり、

古松　同村の醫良哲か家にあり、幡惋贅蒽、観了画し

藝藩通志 巻

異柿　市川村にあり、枝幹及び實ともに蜜柑に似たり、

人物

宍戸家俊　宍戸元家が三男にて、隆道が養子となり、深瀬祝屋の城主なりしが、薙刀、及釼法を陸奥の由利某より傳へて、愛宕の神に祈誓し苦脩の餘、其術神に通じ、飛行自由を得たり、後に其法を河野大蔵と云ものに傳ふ、元亀元年四月四日、深瀬の犬飼が原より、飛去りて、山城の愛宕山に入りしが、今猶愛宕の右脇に祠宇ありと

いへり、宍戸の故墟にも小祠を立て、司箭明神と
いへり、像ハ天狗の状なり、今薙刀ハ司箭流と
云、剣術ハ貫心流と同じ、皆此人を祖とす、以下

岡三左衛門　栗屋村の人、享保年間幕府より召
され、儒官となる、父を入江三郎右衛門と称す、三
次君に仕へ、禄百石を賜ふ、後致仕す、兄を元瑞
といひ、医を業とす、男幸右衛門、出雲侯に仕へ
鉄炮役を勤む、

等顔　吉田村の迫と云所の産なり、雪舟三世の
画孫と称し、妙画、世の知る所なり、

立川省菴　上根村の人なり、齋藤五右衛門に学
ふ、寛政間に於て脩業、壹医学助教となる、

四郎兵衛　吉田村の人、膂力に名あり、毛利の時
庫前の大石を運ぶ、其石五十人にあらざればあ
しらハぞいふと云、今新町裡に、四郎兵衛宅址あり、

岩(かん)巻(まき)善大夫　三田村の産なり、角觝の上手にて

一時敵手なしといふ、本藩より俸を賜ふ、

槙戸喜傳（まきのときでん） 同村の產なり、角觝に名得たり、

與三郎 吉田村の人、圍碁の上手なり今竹坐氏が祖なり寛永比の人なり、

孝義

吉田村久松 後久三郎と称す 幼く父を喪ひ、母亦久しく病む、歳僅に十餘歳、日毎に物を近市に賣り、米を得て、母を養ふ、寶永五年戊子、褒賞せらる、

同村正兵衛 性篤實にして、上を敬ふ、延享年中祖父より傳へし、古銀若干を官府に献す、寛延元年戊辰、賞せらる、

同村久四郎妻祐 舅姑共に年老入、目盲く足跛

よし、児三人あり、夫久四郎ハ、日〻世の営に出行けれハ、猶、看養力を盡せ、寳暦二年壬申、賞を蒙る。

桂村傳蔵 十一歳にして、母の重く病るに遭ふ、傳蔵看護心を盡せ、人のいさひ遊ふ日、又務ふる児ものなどみて、衆人ありて、誘ひけるにも、傳蔵ハ、母に侍して敢ていでず、湯薬の事必親し、二便の變必記せ、一日醫生誤りて、他人の薬を、あやまりたるに、傳蔵其薬品をためしてこそ、進めなりしに、其用心の密なる、皆此類なり、天明四年甲辰賞を蒙る、

横田村七郎同妹すゑ 家極て貧しけれハ、二人共に人の奴婢となりて、親を養ふ、或ハ己か衣をぬきて、きせ、又ハ糧にかへて、食物を進む、主人に事ること、亦甚厚し、天明五年乙巳賞あり、其後父死し、母病む、すゑも亦先立ちて歿す、七郎

母に孝を怠らず、寛政辛亥再ひ賞せらる。
下根村玄碩　上を敬ひ、よく人を導く、天明七年
丁未賞せらる、
西浦村勘四郎兄弟三人　勘四郎九左衛門、七五
郎とて、兄弟三人、孝友類ひまれなり、勘四郎初め
妻を迎へしか親への事養心にかなはしとて、出し
やりぬ、その後皆無妻にして或は炊き、或は耕し或
は侍養して、寛政元年己酉、兄弟共に賞せらる。

三田村清兵衛同弟五三兵衛　兄弟友愛にして
よく父母に事ふ、姉妹もありしかが、皆二人の風
をうけて、順良なり、寛政三年辛亥賞せらる。
有留村末兵衛　性柔順、父死して、兄其家を嗣き
母は妹と共に、別居せしが、末衛、日ゝに三たひ
ゆきて、安否を問ひ飲食の事など、必詳に問、母
寺詣せるにハ、必従ふ、兄より、田をわかち与人と
て、投けしむるに、母の許に、近き、瘠土を乞ひ、美田

を辞して、固く受ず、寛政三年賞あり、

上入江村長松　老母に事て、孝なり、家貧く傭賃して養を致す、勤苦尤甚し、寛政四年壬子賞賜あり、

来女木村長右衛門妻なみ　老ぬる舅姑を養ひ、其節、男子も及ばざる、舅姑、人に逢へば、毎に其孝を称す、長松と同年賞せらる、

川根村隆菴　備後三次郡の人、父左仲と同く此村に来る、上を敬ひ、衆を恵むの心深くして、善く村民を導く、上より同し年賞あり、

戸島村好助　親に孝に、よく貢賦を勤るを以、文化五年戊辰、賞せらる、

故家

多治比村世良氏　先祖、見付次郎元氏、毛利弘元の庶子なり、元就の時より其家を見付と称せられ、後又吉岡の号を授る、其子元正、其子元侶輝元より世良氏を賜ふ、元侶、輝元に周防に従ひしに故ありて、故土に帰住す、其子元宣農となり、郡の大里正となる、見付元氏より今の七郎左衛門にいたる、九代家に系譜あり、且元就の白

画肖像を持傳ふ、正徳六年、徳山侯、借覧して、裱補を改め、二重の函を製して返さる、

吉田町吉岡氏　多治比村、世良氏の支族なり、勘右衛門元保より分れ今の才右衛門まて、七代

同町横田氏　其先横田備中ハ、武田信玄の将なり、其子重右衛門、其子藤左衛門清春、秀頼に属し大坂敗後、三原に来住す、其子春家、其子左右衛門政春、吉田に来る、其子藤右衛門より、又二代して今の彦左衛門に至る、初め備中が子重兵衛、信玄より薬方を授る、今に至るまて、返魂丹及ひ疵薬を製す、

同町青山氏　先祖青山新蔵ハ、出雲の士なり、天文九年、尼子晴久、吉田攻に從ひ、大田口にて首級二を得、勝に乗して、深く入、遂に虜とられ、獄に繋れしを、其後毛利氏赦して、家人三宅新九郎衛門が養子とせられ、後眼を患ひ、盲したれとも軍

一と改名し、尚毛利氏に侍して、平語など語りし
か、移封の時、従はずして、留りしとぞ　一説に、新蔵、勇士なる
もハ、虜を赦し、禄養せられしか、其後、毛利尼子を
滅せられしかバ、旧主の仇に事ふるを恥、自ら両の
眼をつぶし、軍一と称を、尚めくらして、音曲を奏
しゝ旅が、卧しながら平家など語りしにや、今に
ゐて、御倍の諺に、軍一が平家
寝てかたし流といへるよしあり。 其子孫、三世皆半
左衛門と称せ、又加右衛門、半三郎あり、今の兵
蔵まで凡七世。

三田村長井氏　先祖、三田少輔七郎元實、三田広

三百七十五貫を領せ、永正年中、大内義興に従
ひ、京摂の役に戦功あり、長子能登守元吉、其禄
を襲き、三田新城に住せ、天文中、毛利家に属せ、
二子在、長ハ長井備前元秀、次ハ三田五郎左
衛門元親、父の禄を襲き、毛利氏に萩府に従ふ。
元秀ハ従ハずして、古川萩原城に在しか、其子
六郎兵衛實正、慶長中農民となる、七郎より今
義右衛門に到る十二代、河原屋、濱屋、川見屋、皆

其同族なり。

有留村有留氏　先祖、有留越後直衡、當村古吹の城主たり。今武左衛門まて　十三代

上甲立村三上氏　先祖、三上治部少輔義親近江國三上郡に住せしが、後當國佐東郡に来り、武田家に屬す。其子玄蕃、又近江に歸る。玄蕃か子平兵衛家隆、宍戸氏に従ひ、此土に来り、伊勢山に居る。其子三郎右衛門親光、農となり、原田村に住せ。後ゆゑ有て當村に移るといふ。治部少輔より今助左衛門に至る　十二世。向原小十郎も其同族なり。

下甲立村青山氏　先祖、青山忠家、應永三年宍戸朝家に従ひ、此地に来り、浅塚村勝山城に居る。其子倉大夫家幸、朝家の命によりて、里社の奉祀となり、世々其職を守るをもつて、今の筑前家府まて　十世。

吉田町、波多野氏　古ハ栗屋を氏として、康永頃の
神社棟札に、藤原氏範とあり、明應の棟札、刑部
左衛門元實、永正に元吉、永禄に正宗、文禄に元
辰とあり皆其先なりといへど、世次詳ならず、茇去
の頃、正宗が次子神七といふ者有り、祇園社の奉
祀となり、神七より、今の加賀に至る凡七世、

小山村、波多野氏　永正の頃、豊前と云へるあり、世
々村の祠官たり、今の佐渡に及ぶ十代、家記焼
亡して、世次考べからず、

川本村宗吉氏　先祖、宗吉新左衛門、初甲斐國、太
賀の庄に住し、武田氏の臣たりしが、後此土に来
り、毛利家に属し、其二男新左衛門農となり、当
村に住す、今の伊右衛門に至る八世、

相合村井上氏　先祖、井上三郎左衛門、毛利氏の家
人たり、吉田村にありしが、仕を致して当村に来る
元和五年、里職を勤む、今の六右衛門まで九代

世々里職たり。

市川村檐谷氏　先祖、河野右馬助通兼伊豫檐谷を出、此に来住して、大に土地を開き、檐谷、檜山、正木など、皆故郷の郷名にて其地に名く、今の庄三郎、其裔なりといふ。

上甲立村佐々部氏　先祖、佐々部若狭毛利の家人にて、佐々部村城主たり。今の醫師平格に至る七世といふ、一説に、先祖、吉見出羽といふ、家記焼亡、詳ならず。

高田原村玉井氏　先祖、玉井刑部左衛門、其子源蔵左衛門宍戸隆家の城代たり、其子孫右衛門農となり、今の恒右衛門に至る九代

常友村稲足氏　大内の庶子、次郎四郎、母に従ひ当村稲足に居る、後六右衛門と改め、農となる今の源兵衛まで十世。

吉田町竹野屋　先祖詳ならず、毛利家の時より

此地に在りと云ふ、寛永の頃、與三郎といへる、五藩君にめされて碁を囲み、物を賜りき、與三郎より今の三郎左衛門まで五世、家に聖護院道澄親王、毛利元就并ひの和歌、また等顔、雪舟、雪邨珊良なとの古画、及ひ毛利家より拝領の碗器を蔵む、昔の園池、今も其形を残せり、亭あり、観古亭とよふ、

藝藩通志巻六十八

安藝國高田郡六

土官流寓

城墟

墳墓

藝藩通志巻六十八

安藝國高田郡六

土官流寓

藤原守満　長元四年高田郡の郡司に補せらる
永承中より同守頼、天喜中より同守遠、治暦中
より同頼方、承保より八同頼成、天仁より同頼孝
保延五年より同成孝に譲り、守満以後七代大
抵散位従五位下にて、高郡司大掾なと、に勤め

ありと見へ、其時々の國守の解文代て所領の立券状も数通あり、厳島棚守家蔵の内に見ゆ、下同し、

橘頼朝　同頼時　これも當郡三田郷を領ス、旧解文あり

平景弘　治承三年補任高田郡粟屋郷司廳宣一通あり又同郡、三田風早、豊嶋、庲原、甲立、船木、粟屋、七村、景弘ニ伝ふ所領のよしも見ゆ又厳島神領の知行民部大夫景弘とも見ゆれハ、厳島の神主ニて、神領を代々支配せしなるべし、

毛利時親　建武二年吉田庄地頭職として、こゝに来り、郡山の内今の貴船社の上に、城を築き貞親、親茂、師親、廣房、光房、熙元、豊元、弘元、興元、数代此に居る、興元の子幸松丸、夭死して、嗣なしなりて興元の弟元就、多治比猿掛より、郡山にうつり統を續く、後十州を割據せられしなれバ、郡山全

山を城郭とせられし輝元より廣嶋に移城在
毛利家の事諸書に異同にして温古私
記の説頗る詳なり今これにしたがふ

葉山分宗頼　東鑑に景時申云安藝國大名葉山分宗頼依伊澤五郎催為奥州御下向御供率勇士参向之處於駿河國藁科河邊聞已御進發自其所帰国訖自由之至也仍可被収公宗頼所領等之由被定とあり按ずるに此意ハ景時ゟ代官印東九郎といふもの宗頼ゟ

所領なる高宮郡に切入恣に遊猟し土民を妨け及て郷民に於ろしを憤るに由ありとなり
されハ宗頼ハ高宮を領せしと見ゆ但其頃は高宮郡の名ハ廢して高田郡に併せられし時なれハ見聞私記に高宮と記せしハいぶかし思ふに郡名廢せられしといへとも世間にハ猶旧名を用ひしをいハゆる記せしや故に今の高宮郡にハ載せ難し姑く両郡の内に挙置なり

宍戸朝家　應永中常陸國より来り、初ハ甲立村
菊山柳ヶ城ニ居り、後五龍山ニ移り、基家、家
秀、持朝、興家、元家、元源、元家、隆家、元秀、元續、世々
居守せり、五龍山ハ、吉田郡山と甚近けれハ、元源
の世ニ、毛利氏と連和して婚姻をなし、其後毛利
氏羽翼となり、後毛利氏ニ従ひ長門へ赴く、

足利義昭　晩年流浪して、毛利氏ニ寄り、郡の生
田村知教寺ニ寓居し、後内所ニ薨せしより、墓

おり、

僧自休　何國の人なるを知らす、京都大徳寺ニ
ありしが、當郡、根の谷ニ寓居するゆへ、根自休と
號せ、傳云、不僧不俗風狂ニして、文字を好めりと
厳嶋及ひ福王寺ニ題せる詩あり、其外、更に考
ふる所なし、陰徳太平記ニハ次休ニ作る、いそ
く安藝の次休ハ、一休と同時ニて、一休根の谷
ニ訪ひ来り、次休が玄妙なるを歎ぜしと、今自

休が栖し所なりとて佗て井村品葵寺地に小堂
ありて位牌を置たり當寺開山無用休公禅師
と題せり外に一牌あり大法師隆誉尊霊位と
いへ白休が師なりといへど是非を定めず

大磯妓虎

大日本史曾我祐成傳を按に曰及祐
成報讎厥死頼朝召虎問状既而免帰哀慕悲泣
登箱根山請僧行實脩祐成冥福作諷誦文悼之
以祐成所騎馬為嚫遂為尼如信濃善光寺時年

十九後歸大磯住高麗寺云然るに本藩領内に
虎が事を傳ふる地多しまつ當郡小村に曾我
比丘堂といふ有て虎が流寓の處なりといふ其
外豊田郡戸野村世羅郡赤屋村小童村にも皆
各墓碑もあり且其遺物なりとて今も其所に
のこれるもありて傳ふる所妄説といへども
中にも小村に傳ふる所や詳にして初め戸野
村より赤屋村に移り正治二年小村に来り承

元三年、三十六ニて、同村ニ死せしといふ、大日本史、曽我物語など引て、後住高麗寺とあれど、死所を記されば、同じ寺より、又修行ニ出しも知るへからねバ、今姑く里伝を記せるのミ、

城壚　宅地戦場附

郡山城　吉田村ニあり、建武二年、毛利時親、地頭となり、初て此ニ築く、今の貴布祢社の上なり、其後、大永頃、元就ニ至り、全山を城郭とし、西南ハ、岡本船山の邊、東ハ大濵を限り、郭郛の地ニて規模稍丈なり、今遺址歷々猶見るへし、本丸 二丸 三丸、姫丸、一位の壇、厩 搦、濠塹等の地あり、

船山　同村ニあり、元就の弟、元綱所守、元就ニ叛

心ありとて襲ひ伐れし隍に落て死しけると云
船山の麓に、飛落しといふ處あり。

太郎丸　同村にあり。毛利の家人、福原広近に守郡山の別堡なり。

青山　同村と常友村との間にあり。尼子晴久、郡山を攻る時、兵営せし處なり。山上平坦、遺址を存せり。軍記に、青光井山とあれど、光井山は、青山の北なる、一山をいふなり。

五龍山　上甲立村にあり。應永年間、宍戸朝家、初て、此に築き、末孫元續まて、十一世の間、居守せ、東西十一區、南北九區、遺址なを歴く見るへし。

柳城　同村にあり。揚柳山、又菊山ともいふ。小山なり。是亦朝家所居といふ。（一説に朝家より後、数世此に據る、六世の孫、元家より五龍山に移るといへど、家系によれば、始より、世〻五龍山に居せしと見ゆ。なほ下に朝家、常陸より来る初、暫く此に據りしなるへし。）

祝屋城　深瀬村にあり。一に巖屋城に作る。永正六年、宍戸元家（悪四郎左衛門尉と称す）五龍山を嫡子元源

に譲り、別に此に城居せ、其後隆家（元家の二男弾正忠家）城（深瀬式部）直良三人相續て居守せ、田中に茶園の跡あり、今その遺種を存せ、香氣殊によしと云、

萩原（をきはら）城　三田村にあり、三田七郎元實の所居、又ハ備前元秀と云ふ（元秀ハ元實の孫なり）

七郎城　同村にあり、三田元實所居、後五郎左衛門元親まで、これを守る、

茶臼城　同村にあり、主名を失ふ

藝藩通志　卷

朝日（あさひ）城　秋山村にあり、秋山兵衛（一に兵部）所居

藤加勢城　同村にあり、秋山氏所居と云ふ、其名を傳へず、（傳云、秋山氏、後に出雲大原郡に徙る、其地に秋山善神と云祠あり、兵部の靈を祭るとぞ、されそ秋山兵部の）

小田城　小越市川二村の界にあり

星城　市川村にあり、吉井山、又元井山と云ふ、井上元苴（一に信經）所居、又市川式部とも云、

源城　谷城　並に向山村にあり

古城 二所 並ニ志路村にあり、一ハ志路上野、一ハ
國司與左衛門なりといふ、ともに毛利の家人、
古城 三所 並ニ同村にあり、一ハ岩倉太郎左衛門
一ハ松田門蔵介一ハ尼子氏の所居なりといふ
留營せしなるべし、
御子丸(ここまる) 依ゝ井村にあり、井上善左衛門所居、
丸山 門出山 並ニ同村にあり
古塁 下根村にあり、毛利家人、井上越前所居、

古塁 上根村にあり、是亦井上氏が別堡なりと云、
平家城 國山城 並ニ勝田村にあり
田屋城 土師村にあり、毛利家人、中村孫右衛門
所居
武士城 陣丸 並ニ同村にあり
槙城(まき) 亀山 並ニ長屋村にあり、其ニ毛利家人
長屋下野ヵ所守、一説に、下野ハ、佐伯興藤ヵ後
忠治が男なり、始中馬にあり
て、中馬左馬介と称す、後氏を改め此に移る
その子亦下野と称し、二代この城に居しと云、

木村城　同村にあり

星城　高野、桂、二村の界にあり、星野市兵衛が居
後に長屋下野、別館とすといふ、

中山　桂村にあり、一に三笠城と称て、毛利家人
桂元澄が守、

栢城　雨乞城　並に上入江村にあり　栢村佐渡
が居、雨乞城は、栢城との間、僅二町許なり、おもふ
に、その属堡なるべし

藝藩通志　巻

鍋谷城　井原村にあり、井原小四郎が拠、

樋詰城　北田城　並に同村にあり、樋詰城は、樋
詰某所居といふ、

古吹城　佐祢登宇城　並に有留村にあり、古吹
は、有留越後直衡が居、

楠城　碇崎末信城　佐喜麻遅城　並に保垣
村にあり、共に主者を志らず、楠城の地には壕
塹の形ありて、里人馬洗といふ

日下津城（ひげつ）　久志城　並ニ坂村ニあり、日下津ハ毛利家人、坂新左衛門就清の守、

塩屋城（えんや）　戸嶋村ニあり、毛利家人、粟屋縫殿の守

長谷木城（ながさき）　王子城　並ニ同村ニあり、長谷木ハ東市正の居とぞ、又毛利家人、福原出羽と云

田屋城　茶臼城　並ニ長田村ニあり、田屋ハ毛利家人、内藤河内の守、茶臼ハ武安某と云、

琴崎城（ことさき）　小山村ニあり、毛利右馬頭元房、元就五世の祖所居、或ハ元就の時の属堡なりとも云、按ニ、毛利時親より既ニ郡山ニ城居す、されバ元房、別ニ此に居住らんバ、多くハ郡山の附城なるべし、

両崎城（あまうさき）　同し村ニあり

鈴尾城（すずを）　福原村ニあり、毛利家人、福原貞俊同広俊の守、

宮城　川本村ニあり、大内氏の麾下、堀江筑前守子、甲某の居、此地すこし神祠ありしを、他所ニ移し城居せしが、業ありとハ、退去せ、後毛利家より

関弥右衛門を置て守らしむ、又災ありとて廃せられぬ、

二山城　山手村にあり、毛利家人、中山豊後守居れり、

天神城　竹原村にあり、毛利家人、井上河内守居れり、

古城二所　並に国司村にあり、一ハ国司右京、一ハ赤川筑前守居れりといふ、共に毛利の家人なり

丸山　下小原村にあり、毛利時親に築、又上小原村に物見丸といふ地あり、城地ならん、

釜城　同村にあり、三上豊後守居れり、下二名、共に毛利家人なり、

清源山　長見山　並に同村にあり、清源ハ、門田（一に門出）太郎左衛門、長見ハ渡部太郎左衛門こゝに居、

勝山　浅塚村にあり、應永二年、宍戸麾下、青山忠義所守、

勝山　栗屋村にあり、天正年間、三吉新兵衛隆信所居、其後、栗屋五郎左衛門、亦此に據しといふ、隆

信、一ニ粟屋刑部隆述ニ作る、按ニ、隆信、隆述別人ニあらず、隆述ハ、比熊山城主（三次郡）三吉氏の支族なりしが、此村ニ居を以、或ハ粟屋とも呼しと見えたり、

三戸城ハ同村ニあり、三戸与五郎所居、

平家城　浅原城　古城　並ニ同村ニあり

仁後山猿城　日原城　奥垣内　並ニ船木村ニあり、

面山　佐々部村ニあり、毛利麾下、佐々部若狭所守

牛首（うしくび）城ハ同村ニあり、佐々部氏、初め面山ニ居り後此ニ移る、若狭ハ、家人、信木ニ殺され、今信木と云地ニ墓あり、

信木（のぶき）城　久須屋（くすや）城　並ニ同村ニあり、信木城ハ佐々部ヵ家人、信木某所居、

加不呂久（かふろく）山　羽佐竹村ニあり、浅間和泉所居、

吹屋城（ふきや） 川根村にあり、天正頃、石見の口羽道良か家人、信濃といへる者の此城をもちしといふ、

神子丸（かご） 同村にあり、吹屋城を距ること遠からず、その属堡なるべし、

木原城 熊谷城 並に、同村に在、木原は道良か家人、秋山蔵之丞、熊谷は、熊谷平六といふ、

本所丸 破胡丸（もご） 陣尾 並に同し村にあり、三墟相距ること遠からず、其邊に、川根勝賢山根勝

負、破魔射場なと呼ぶ地あり、又七人塚、八人塚といふもあり、

高橋城 生田村にあり、池田右馬頭所居、山の西邊を櫻山といふ、又清水池といふあり、城墟より水路を通せし、諸士居住の所といふ、

櫻尾城 附古堡 北村にあり、毛利家人、櫻井新左衛門といふ、後石見の士、小笠原弾正長雄、姓を中村と改め毛利氏に属し、此に来居すといふ、此外に、小城

いふあり、桜尾の居堡なりしといふ 按に桜井氏ハ陰徳
太平記に見えたり、小村に居るを以、小いと称せし毛利氏、大友氏と戦ひし時、討死せし人なり、

山田城 同村にあり、山田孫右衛門居る。この他
村内に軍陣場いへる所て平坦の地あり、兵近廻
の谷に、水汲場といふ所あり、又国光友信といふ所
あり、皆城塁なりしといふ。

松尾山 横田村にあり、一に土肥城と称す、高橋
大九郎貞光 一に久光 居る、後、石見、出羽城に移居す

按に貞光ハ毛利家の外戚にて、詳に陰徳太平
記に見えたり。

黒懸城(くろかけ) 原田村にあり、一に猪掛城ともよぶ、高橋
九郎左衛門居。

俄々羅尾城 河内城 並に来女木村にあり。

松笠城(まつかさ) 火神城(ひかみ) 高城 丹蔵城 並に本村に
あり

大原城 西浦村にあり、飯田、對馬居、八下二名

岳ニ毛利家人なり。

高杉山　近安山　並ニ同し村ニあり。高杉ハ高杉小左衛門、近安ハ藤井源兵衛か守。

平家丸山　八幡山　並ニ同し村ニあり

猿掛山（さるかけ）　多治比村ニあり。毛利弘元、七十五貫を領し、此ニ居住す。世ミ毛利氏の所持ニて元就も此城ニて誕生せりといふ。

平佐山（ひらさ）　竹長山（たけなが）　並ニ同村ニあり。上ハ平佐市正、下ハ櫻井與三左衛門かもる。

高猿城（たかさる）　同村ニあり

小野城　古屋村ニあり

吉川元春宅地　吉田村、岡本ニあり

小早川隆景宅地　同村、十日市の南ニあり

宍戸隆家宅地　同村、猿分ニあり

二宮太郎左衛門宅地　同村すらこうとニあり

韓人甚七宅址　同村、三日市の西にあり、朝鮮の俘なり、

宍戸弥四郎隆忠宅址　下甲立村、末国にあり、元家の弟なり、讒に因て殺されし、五龍山、釼明神社此人を祭る所なり、

勢市三郎左衛門宅址　同村、勢市にあり

中所四郎左衛門宅址　同村、中所にあり

相合四郎就勝宅址　相合村、道場の前にあり、就

勝ハ元就の弟なり、故ありて殺されし、

牢屋址　同村にあり、毛利氏の時、罪人禁獄の所なりしといふ

児玉越後宅址　西浦村、夜光にあり

森末左京宅址　同村、柳坪にあり

児玉市正宅址　中馬村、末光にあり

井上備前宅址　多治比村、上殿にあり

佐藤彦三郎宅址　同村にあり、地名を屋敷といふ

始元就の別館なりしといふ

栗屋刑部宅址　同村、横路にあり

井上豊前宅址　同村、千川にあり

甲村加賀宅址　同村、葛籠にあり

布瀬豊後宅址　同村、瀬戸にあり

三戸助九郎宅址　同村、黒田にあり

河野万五郎宅址　同村、祇園の下にあり

口羽道良宅址　川根村、吹矢山にあり

逸見吉左衛門宅址　秋町村、仁後にあり

宍戸氏宅址　浅塚村に、隆家室人の居し所あり
しといふ、今其地を知る、村内に、たきんばのとらふ
地あり、或は是なるらんとおもひつるなり

長和出雲別館址　上甲立村、末兼にあり

賀屋總右衛門宅址　同村、母城にあり

江田市郎左衛門宅址　同村、江田にあり

渡部飛騨宅址　下小原村、内沢見にあり

山縣市兵衛宅址　同村重光にあり

櫻井左京進宅址　同村高屋にあり

村上孫右衛門宅址　同村友貞にありき

国司右京宅址　国司村にあり

赤川筑前宅址　同村にありき

貞近雅樂宅址　戸島村則本にあり

清宗與三左衛門宅址　同村陸地にありき

羽仁又右衛門宅址　保垣村にあり

謠川刑部宅址　坂村中岨にあり、俗云刑部ハ楷仲家の流にて、吹笛を善す、村民平五郎其裔孫なりとて、今に笛一管を蔵す、

内藤與三右衛門宅址　同村尾原にあり

宍戸玄蕃宅址　井原村土居にあり

三田五郎左衛門宅址　三田村罡にあり、里人これを新城といふ

福永某宅址　同村にあり

藝藩通志　巻

北原平左衛門宅址　勝田村藤安にあり、村民主
蔵その裔なりといふ、
長門左門宅址　志路村、土居田にあり
志路宗兵衛宅址　肯留村、土居にあり
槍分(やりわけ)　太田口　順礼堂　嘊(なぞ)　土取場　並に吉
田村にあり、皆天文年間毛利尼子の両兵合戦
の地なり、土取場は、元就父子、親ら戦ひ、敵五百
余を打取、首塚を築きしといふ、
兜䓗山(かぶと)　山部村にあり、毛利氏偽兵を設け出雲
の兵を欺きし所といふ、
宮崎　風越　並に相合村にあり、皆毛利尼子合
戦の地なり、宮崎には、吉川興経、黒政葛兵衛父
南條、小鴨等留営の處といふもあり、
平陣山(ひらじん)　川村にあり、尼子氏屯営の地なり、
陣丸　尼子道跡　小村栢尾山にあり、毛利氏、出雲に攻入

藝藩通志　巻

の時宿陣ありし所といふ。又此山間に尼子道とて一の小径ありて、石見に通ずと傳ふ。尼子氏郡山城の不意を襲ハむとて、別に此間道を開くと。今ハ榛棘生ひ茂りて、人も通ふ事なし。

原　原田村にあり。南村故城主高橋氏、宍戸氏と此に戦ひ、高橋戦死すといふ。この原に太刀洗川といふあり。

加口(り)伊(い)津(つ)女(め)　粟屋村にあり。南村故城主三吉氏、尼子

氏と合戦の地なり。陰徳太平記にハ、青屋出羽高橋大九郎と此に戦ひ、高橋自殺す。其後毛利氏、亦合戦ありしと見へたり。

犬(いぬ)飼(かひ)平(ひら)　深瀬村にあり。天文九年、宍戸隆忠、尼子氏と合戦の地なり。事ハ陰徳太平記に見へたり。

於(お)保(ほ)佐(さ)屋(や)原　池内おほさやハ、國司村にあり。天文九年出雲の兵、湯原弥次郎、毛利氏の兵と此に戦ふ。弥次郎自殺す。腹切石あり。池内ハ上

小原村分にて、おなしやうに連なれり、同時の戦場なり、事ハ陰徳太平記にいへり、

中山　西浦村にあり、尼子下野、戦死の地なり、今古墓を遺せり

江田　余谷　並に、上甲立村にあり、江田ハ楊柳山の前余谷ハ、その後なり、應永年間宍戸氏和智弾正と闘戦の地なり、

赤柴山（あかしば）　小山、井原、二村の界にあり、毛利武田の

両兵此に戦ふ、流血草を染む、因て名を得たりといふ、太刀洗川といふあり、又塚八あり、死骸塚となり

坂上　上根村にあり、陶道駿、武田を攻る時熊谷氏と此に戦ひしといふ

住吉山　大元山　楊原山　並に吉田村にあり陶尾張守、兵営の所といふ、房顕記にハ自豆たといふあり此山内なるへし

宇和上天（うわじやうてん）　秋山村、野山の内にあり、秋山三田、安武

合戦の地なり、大将の墓、士卒の墓といふもあり

墳墓

将軍義昭墓　生田村、智教寺地の南、丸山にあり
卵塔なり、土人、天下墓と称す、按に義昭、毛利氏
に寓し、知教寺にて薨せしを、此に葬しならん

毛利弘元墓　多治比村、猿掛山の麓にあり、樹を
植てしるしとす、悦叟院の墓といふ、悦叟ハ弘元
の法諡なり、

毛利元就墓　吉田村、郡山古城の内、洞春寺地に

あり墳上に、一大樹あり、刺いぶきと称せし、今は
枯たり、周りに石垣あり、塋域稍ひろく、上下二
區あり、上ハ十八歩、下ハ二百歩許にて、石階を
設く、前に石鳥居、石燈籠三基、敷石水盤等あり、
石燈籠両基、藤君寄附しけり、
其除ハ、こゝハ去門より造ると云　下に、守塚、一戸あ
り、常に掃除、献燈のことを勤む、年忌にハ、去門
より展墓の儀あり、
毛利隆元墓　郡内三所あり、一ハ郡山の内常榮

寺地にあり、碑面に、常榮寺殿、前光禄大夫、花渓
榮公大居士、永禄六年癸亥八月四日と刻せし、一
ハ佐々部村、早稲田、運花寺地にあり、南天樹を
志るしとぞ、一ハ北村の内、毛利の森といふ真葬
ハいづれの地なりや詳ならず、北村に所傳ハ、隆元
の墓、もとハ佐々部村の早稲田にありしを、以
の頃か、毛利飛彈守、同日向守等小村に移され
しと、志られて、佐々部と北村とハ、同じそのある

常榮寺ハ別なり

毛利元綱墓　吉田村邑本にあり小祠を建て船山社といへり

毛利興元墓　毛利幸松丸墓並ニ同村秀岳院廢地にあり谷印塔にて傍に南天樹三四株あり

毛利氏古墓　北村の内金井谷曽根の森といふにあり此毛利氏の墓といふ又下小原奥迫に毛利氏小児の墓といふあり

宍戸氏三墓　深瀬村にあり一ハ厳屋城主宍戸元家の墓途中といふ所にあり碑面に鳳藝院殿前藝州太守大空道蘊大居士と刻せ一ハ隆益の墓小山にあり一ハ家城の墓松の本といふ所にあり苔に文字見へかたし

宍戸隆家夫妻墓　上甲立村天叟寺地にあり隆家の碑ハ天叟覚隆大居士文禄二年巳二月五

日とあり、室人の碑には、椿窓壽久禅定尼文禄
三年三月二日と刻せ

宍戸氏二墓　下甲立村、理窓院の後にあり、無
字碑なり、孫四郎隆忠出雲某二人の墓といひ
傳ふ、或ハ孫四郎夫妻の墓ともいへり

福原氏八墓　福原村にあり、一ハ廣俊の墓といふ
周りに石垣あり、其前には、石燈籠六基を建つ、其
餘、六ハ、貞俊、元俊、および廣俊の女、又出羽兄弟

三人、すへて六人の墓といふ、石垣二區に分ち、一區
に三墓宛並ふ、石燈籠四基あり、長門、福原豊前
所建といふ、貞俊の碑には、文字もあれど磨滅し
て見へがたし、又卵塔一あり、是も福原家の墓と
いふ、凡此八墓、長門より、守塚の者一戸を置、掃除
花水を供せ、其家に、獅子頭の香爐一座あり、大
江姓、福原、近江守廣門、明和七年庚寅六月と記
せ、展墓使、毎にこれを墓前に出し、香を焚く

渡部氏墓 七人塚附 下小原村内、永見ニあり渡部太郎左衛門相合就勝ゟ叛心ありしに、黨せしとて元就ニ殺されしもの七人、七人塚ハ渡部ゟ黨を葬るといふ、塔四基あり、其他一ハ櫻の木、二ハ榎の木を志るしとするのミ、渡部ゟ事ハ、陰徳太平記ニ見えたり、

國司右京墓 國司村体照庵地ニあり

秋山若之丞墓 門根村木原城地ニあり

左衛毛理墓 同村篠原ニあり、土を積むこと四方九間許ニて、上ニ自然石を立つ、里人さ称かりと称を其故を志らず、其近辺ニ、侍屋敷、櫓田なといふ地もありとぞ、

高橋弾正墓 生田村、犬伏山の麓ニあり、墳上ニ松樹あり

尼子下野墓 西浦村、中山ニあり小石を攅て、志るしとぞ

井原小四郎墓　井原村鍋谷城の下にあり
手塚　同村にあり井原小四郎その所獲敵兵の
手を集め埋とい

宍戸玄蕃墓　同村高源寺址にあり
武田氏墓　同村赤柴山の麓にありし武田の墓と
いひて名を傳へず
三田氏墓　三田村正覚寺址にあり一ハ三田七郎
元實一ハ同能登元吉といふ其他古墳多し三田

の墓といふのミ
己斐和泉墓　同村岡にあり
佐々部若狭墓　佐々部村信木にあり石を積め
竹を植てしるしとせり
古墓　長田村にあり碑字磨滅して讀むへからす
尼子義久兄弟の墓といふ　按に義久の墓ハいにあるへけれおそらくハ不傳の誤ならん
僧嘯岳墓　吉田村洞春寺址の山にあり同寺開

墓の傍なり

曽我比丘墓　小村にあり曽我祐成か妾虎か墓と云石をたゝみ松を植ゆ傍に小堂あり佛像を安置す虎か持来りし物なりといふ

韓人墓七ツ児墓　吉田村墓七ヶ宅地の傍にあり児の名ハ伊勢丸にさきしらて死て毎歳忌日に墓七内をつくりて祭る其の祠に去来咲き花もさきいさそ鳴き鳥も鳴く伊勢坊いなそ加へらぬぞくと唱へしよし土人憚ることに今にこれを供ふ

首塚　石合村平陣山にあり三基を並ふ三つ塚こいふ皆尼子家臣卒の首を埋といふ